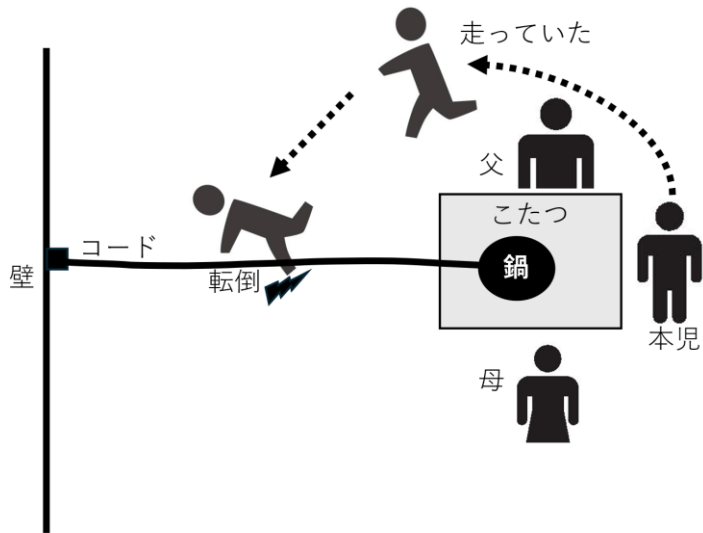


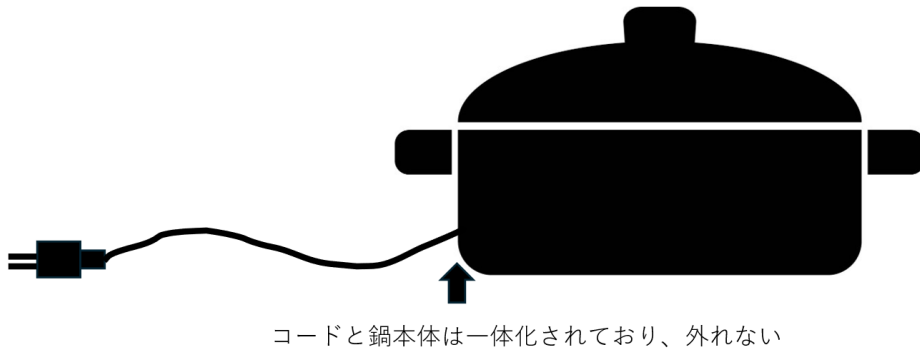
Injury Alert (傷害速報)類似事例

電気グリル鍋による熱傷 (No.28 電気ケトルによる顔面・胸部・上肢熱傷の類似事例 8)

事例	基本情報	年齢：3歳 3か月 性別：女児 体重：15 kg
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		右上腕浅達性Ⅱ度熱傷、左大腿浅達性Ⅱ度熱傷、顔面浅達性Ⅱ度熱傷
医療費		外来 23,660円
原因対象	対象名称	製造年：2000年前後、電気グリル鍋
	入手経路 使用状況	以前から自宅で使用
発生状況	発生場所	自宅のリビング
	周囲の人 周囲の環境	家族全員で夕食をこたつで食べていた
	発生年月日	2024年2月X日(土) 午後7時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	自宅のリビングのこたつ(床からの高さ60cm程度)の上で電気グリル鍋を使用し家族全員で夕食を食べていた。電源プラグはこたつに近い壁のコンセントに挿していたが、食べ終わった本児が走って、この電源コードを跨ごうとしたところ足が引っかかり転倒(図1)、鍋ごと本児の上にかかり熱傷を受傷した。受傷前、電気鍋のコードはピンと張った状態ではなく床に垂れていた。両親が熱傷部分を冷却したうえで救急車を要請し、医療機関Aへ搬送となった。電気鍋は鍋とコードが元々つながっているもので、力が加わっても外れないものであった(図2)。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	医療機関Aに到着時、熱傷範囲はすべて合わせて手掌法で5%程度であり、浅達性Ⅱ度熱傷であった(図3)。救急外来で熱傷部分の洗浄と保湿加療を行い、その後、5日間かけて救急外来で毎日同じ処置を施行した。5日目に両親だけで熱傷に対する処置を自宅でできるであろうと判断し医療機関Aでの加療を終了、その後は両親に自宅で洗浄と保湿を継続してもらい、かかりつけの皮膚科で経過観察の方針とした。	
キーワード	電気グリル鍋、コード、熱傷	



【図1】受傷時の状況



【図2】電気鍋とコード



図 3a 左大腿部熱傷所見



図 3b. 右上腕熱傷所見